

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800196		
法人名	大和ケアサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム 花うさぎ 千早		
所在地	〒813-0044 福岡県福岡市東区千早4丁目13番27号 092-674-1800		
自己評価作成日	平成25年01月15日	評価結果確定日	平成25年03月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利便性の良さと目の前には千早中央公園が広がり、又施設のダイニングからの解放感があり公園を一望できるなど温暖な日などは散歩や食事会等いろんな行事を行っています。
ユニット間には交流スペースを設け入居様が自由にご利用されたり催し物などを行っています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「花うさぎ千早」は、都市開発が進むJRや西鉄千早駅の近くに位置し、周囲には消防署や警察、病院、スーパー等があり、利便性の良い4階建て複合型福祉施設の2階部分の、2ユニットのグループホームである。利用者と職員は、リビングルームや多目的ホールから、正面の広々とした千早公園を眺めながら一日が始まり、穏やかで、自由に過ごす姿は、家族に「ここを選んで良かった」という信頼に結びついている。運営推進会議を、併設小規模多機能ホームと合同で開催し、家族が交代で参加し、自治会長や民生委員、包括支援センター職員と意見交換し、地域の防災訓練や、ホームの夏祭りに相互参加するなど、開設2年目で、活発な地域交流が始まっている。また、利用者の健康管理は、2週間毎の主治医の往診や受診支援で、充実した医療連携が図られ、今後が期待される「花うさぎ千早」である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シダプル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 25年02月12日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

a

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「安心と尊厳のある生活」をフロア内に掲げ、一同で共有できるようにし、業務を行っている。	事業所独自の理念「家庭的な環境の中、可能な限り自立して暮らせるように支援します」「地域社会の一員として安心と尊厳のある生活を支援いたします」を掲げ、ホーム内に掲示し、職員会議時に唱和する事で理念を理解し、共有しながら、介護サービスの実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加し、交流を深め、夏祭りの行事には老人会の方々に招待している。散歩や買い物等に出かけたときはこちらから声をかけ挨拶をするように心がけている。	地域の夏祭りや千早小学校で行われた防災訓練に参加している。ボランティアの来訪や保育園児との交流は、利用者の楽しみとなっている。「花うさぎ千早夏祭り」に多くの家族や地域の方の参加があり、開設2年目であるが活発な地域交流が始まっている。今後、介護教室や相談事業に取り組むことを目指している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、事業所の状況報告を行ったり、老人会や地域包括センターの方々に意見や相談を聞いて参考にしたり、対応をするようにしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況報告や活動報告を行い、参加の方々の意見をいただいている。	会議は2ヶ月毎、併設小規模多機能ホームと合同で開催し、自治会長、民生委員、老人会会長、地域包括支援センター職員が参加し、活発な意見や情報交換が行なわれ、充実した会議になっている。出された意見がホーム運営に反映出来るよう努力をしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議には地域包括センターからは毎回参加していただいている。また、行政の方にも参加を促しています。	管理者は、ホームの情報や課題、困難事例等の相談に、行政担当窓口に出向いたり、電話等で連絡を密に取っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みについて理解してもらい、少しずつ協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に取り組んだ個別事例などの資料を回覧したり、全職員が身体拘束となる声掛けなどが行われていないか会議やカンファレンス等で話し合っている。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、月に1回の職員会議で事例を挙げて話し合っている。特に、言葉による拘束については、職員間で気付いた時に声をかけ合い確認している。利用者の行動を制限したり制止したりするのではなく、寄り添い、見守りに徹し、利用者の安心した暮らしを守る介護サービスを目指している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の個々に合わせて、職員が統一した対応をするようにしている。個々の性格や性質を尊厳し、敬うことで日頃より虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、資料とレポートと一緒に提出し、運営会議時に内部研修を行っている、	現在、成年後見制度の利用者がおられる為、管理者は制度について十分理解している。外部研修で制度について学んだ職員が内部で研修報告を行い、職員全員への周知を図っている。また、利用者や家族が制度を必要とする時、いつでも支援出来る体制を整えている。玄関にはパンフレットを置き、来訪者が閲覧出来るようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書面と口頭で説明を行い、家族・利用者の不安や疑問点の解消に努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族・利用者が出席し外部に意見を伝える機会を作っている。苦情や不満があった時には、全職員で話し合いを行い、対応するように心がけている。入口にはご意見・ご要望箱を設置し意見等を聞き入れている。	玄関に手作りの意見箱を設置し、苦情相談窓口を掲げ、利用者や家族の要望を聴き取る環境を整えている。家族の面会が多く、運営推進会議に家族が交代で参加し、意見や要望を聴き出す機会となっている。また、出された意見は、出来るだけ運営に反映させるよう努力している。今後、家族同士の交流や家族の思いの表出の場として、家族会の開催を検討している。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、運営会議とフロア会議を開催し、職員の意見や提案を聞いている。	職員会議を毎月定期的に開催し、出来るだけ全員参加の状態、意見や要望を聴き取り、ホーム運営に反映させる努力をしている。また、会議の中で、カンファレンスや内部研修も実施し、職員の質の向上を目指し、充実した利用者への介護サービスの提供に取組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、要望や提案を聞き、働きやすい環境整備に努力している。それにキャリアパスの導入などを取り入れている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集に関しては、塩原の施設と並行して積極的に行っている。年齢・性別の制限は設けていない。 それぞれの能力や条件あった働きをしていただいている。	職員のロッカーや休憩室を整備し、積極的に休憩を取るよう声をかけ合い、リフレッシュして仕事に取り組める環境を整えている。似顔絵、創作、歌、園芸、手芸、料理等、職員が特技を活かして生き生きと働き、職員同士のチームワークも深まっている。また、職員の採用は、人間性や介護に対する姿勢、優しさを重視し、経験や資格、年齢、性別等の制限は設けていない。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・外部研修等に参加していただいている。 ・会議などで言葉使いや接し方を話し合っている。	外部研修に参加した職員による、報告を兼ねた勉強会で、利用者の人権を尊重し、安全で安心出来る介護サービスを提供するための対応を職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心を損なわない介護の実践を目指している。また、毎月の職員会議で理念を唱和する事も、大切な人権教育と捉え取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修や他の外部研修への参加を促している。勤務等に対しても配慮している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等にての交流を促し、又地域の民生員や包括センターの方との話し合いを設けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず見学や面談にてご本人様とお会いして直接状況の聞き取りを行うようにしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の問い合わせや面談時には、ご家族様の要望等を十分に聞き、ご家族様の思いをしっかりと聞き取っている。ご本人様の前では、話にくいことは、席を変えて、話を聞くよう配慮している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせや面談の時点で、ご本人にあった他の事業部を紹介させていただく場合もある。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて、出来ることを一緒に行いながら、会話や表情をみて、一緒に笑ったり喜んだりしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や面会をお願いしたり、病院受診に関しては出来るだけ家族の付添いをお願いし、施設に足を運んでいただけるようにしている。定期的に電話やお便りにて状況の説明を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人の希望があれば、自宅付近等へのドライブなど家族の協力を得て、可能な限り対応していきたい。</p>	<p>友人、知人、近所の方の面会もあり、利用者の楽しそうな笑顔が見られ、職員は、馴染みの方がいつでも来訪しやすい雰囲気作りに努めている。また、入居後の利用者同士の馴染みの関係や職員との信頼関係等、新しい出会いと、馴染みの関係も大切にしている。</p>	
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々の性格・レベルに合わせて一緒に洗濯物などを畳んで頂きコミュニケーションを取っていただいている。また、日頃のレクリエーションや外出を通してお互いに交流が図れるように関係作りを行っている。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院等で退所された方には、病院へ見舞訪問を行っています。その後も気軽に相談が出来るよう支援等を心掛けています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人とのコミュニケーションやアセスメントにより、把握に努めている。不穏時・不安定時は特に傾聴をすることで把握に努めている。</p>	<p>職員は、利用者の思いや意向を把握するため、出来るだけ寄り添い、利用者の言葉、独り言等を聞き逃さず、意向の把握に努めている。また、意向の表出が難しい利用者に対しても、この1年で信頼関係を築き、表情や仕草で思いを汲み取る事が出来ている。家族に相談したり、アセスメントを見直す等、利用者のこれまでの生活歴の把握にも努めている。</p>	
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の医療機関や介護支援専門員等と担当者会議を開き少しでも多くの情報を聞き取り、記録に残し共有している。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々の生活パターンやケアプランを把握し、統一した無理のない援助を行っている。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月1回、担当者会議を開き、問題点や課題を出し合いカンファレンスを行っている。</p>	<p>介護計画は、利用者の状態に合わせて、3ヶ月から6ヶ月毎の作成となっている。利用者や家族の要望を十分聴き取り、主治医や職員間で検討し、利用者や家族が納得できる介護計画を作成している。また、利用者の状態変化があった時には、家族や関係者と相談し、その都度介護計画の見直しを図っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の会議記録やケアプランの評価等によって申し送りを行い、共有に努めています。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の希望にて訪問理美容の利用や歯科の往診にてサービスの多様化に取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議の実施 夏祭り等、施設内イベントに地域の方を招待し、参加して頂いている。又、地域の催し等や避難訓練などに参加しています。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様の希望にてかかりつけ医を選んでいただき、月2回の往診を実施している。入所前のかかりつけ医より紹介状にて情報の共有・医療の連携に努めている。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医を選択してもらっている。協力医療機関による2週間毎の往診や専門医療機関への受診支援等、利用者が安心して医療が受けられるよう支援している。また、各医療機関と連絡を密に取り、利用者の情報の共有に努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきがあれば記録に残し、医療機関に連絡し適切な指示を受け支援している。 特変時は24時間体制で医療機関と電話のやりとりを行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーを作成し、医療機関との連携をに努め、必要に応じて、家族、医療関係者、スタッフでのカンファレンスを実施している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに対して、施設の方針により、医療機関で行われてる勉強会にもスタッフが積極的に参加するよう取り組んでいる。	入居時に、利用者や家族に看取りについての説明を行っている。利用者の重度化に伴い、これからのホームでの暮らし方について、利用者や家族と十分に話し合い、今後の重度化に対する支援体制の確認を行っている。また看取りの経験はないが、職員は意欲的に考え、職員間のチームワークの強化や介護サービスの向上を目指し、重度化や終末期に向けた体制作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での年2回の避難訓練を行い、また職員全員が消防署で実施の救命講習会に参加し、応急対応や初期対応の講習を受けている。	/	
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を実施している。地域の防災訓練にも進んで参加し、地域との協力体制も築いている。	千早校区の防災訓練に職員が参加したり、自主防災訓練を年2回実施し、併設事業所職員との協力体制と、避難場所、非常口、避難経路等の確認を行なっている。また、消防署の協力と参加を得て防災訓練の実施を予定している。	避難させた利用者の避難場所での見守り等を含め、地域住民の参加と協力を得て避難訓練の実施と、電気、水道、ガスが使用不可の場合を想定し、非常食、飲料水、非常用備品、利用者のカルテ(薬の処方箋)等の準備を期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシー保護については、研修にて知識や意識の向上に努めている。	職員は利用者と家族のような関係を築きながらも、人生の先輩として常に敬う気持ちを持ち、丁寧な言葉遣いを心がけ、利用者のプライドや羞恥心を傷つけない介護サービスに取り組んでいる。また、個人情報のファイルの保管や、職員の守秘義務については、十分な対応が出来ている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望を聞きとり、自己決定が出来るような接し方を行っている。希望により急遽献立の変更をすることもある。	/	
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に添えるよう努め、その方のペースに合わせて支援している。	/	
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ衣類の希望を聞き入れ、起床時、入浴時の整容など、希望に添えるよう努めている。口紅・マニキュア等をしていただきお洒落を楽しんでいただいています。	/	
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状態に合わせて調理や盛り付けを行っている。また、出来る範囲において、食材のカットや盛り付け等、一緒に行っている。	複合型施設の中のグループホームであるが、調理の過程の音や匂いによる五感の刺激を大切に考え、家庭的な食事にこだわり、厨房に頼らず、ホームの台所で職員がそれぞれ頑張って手作りしている。利用者とは一緒に食事をし、「今日の味付けはどう？」等と会話しながら、賑やかな食事風景である。また、料理の下拵えや味見、後片付け等、利用者の残存能力に合わせ、一緒に出来るよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量への気配りや水分量管理から、定期的に水分の摂取を行っている。体調によっては栄養士とも相談を行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促し、介助を行っている。夜間は義歯を預かり、洗浄している。週1回の訪問歯科を利用されたい方もいる。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要時には排泄表に記録し排泄パターンの把握に努め、トイレの声掛けや誘導を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、職員は排泄の記録から、利用者の排泄パターンや習慣を把握し、利用者の表情や動きを察知し、早めの誘導や声かけを心がけ、トイレでの排泄の支援を実施している。また、細やかな支援により、オムツから布パンツに変更する等の成果も表れ、利用者の自信回復に繋げている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、体操、運動、排泄パターンの把握に努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	受診や外出などにより、希望に添えない場合もあるが、出来るだけ、入浴時間など希望に添えるようにしている。	入浴は、基本的には週3日であるが、利用者の希望に合わせて、毎日入る事や曜日を変更する事も可能である。ゆったりとした入浴の時間は、利用者と職員が1対1で向かい合う貴重なひと時と考え大切に過ごしている。また、入浴を拒まれる利用者に対しては、タイミングをずらしたり、人を代えての声かけ等を試みながら、無理強いせずに対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、休息や入眠の促しを行っている。場合によってはフロアの畳の上で、休息を取っていただくこともある。室温や寝具の調節をし、気持ちよく眠れるようしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテにて処方箋を管理し、目的や副作用の把握に努めている。変更や臨時の薬が処方された時は、申し送りノートに記入、口頭での申し送りによって、確認し、症状の変化を見落とさないよう情報共有、誤薬防止に努めている。また、スタッフ2名にて確認し、毎回服薬している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの残存能力を生かせるように役割を持っていただいている。洗濯物たたみ、食事の盛り付け、カレンダーめくりなど楽しんで頂いている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	季節の行事、お花見、山笠見学、夕食等を行い、楽しんで頂いている。公園などに散歩をして頂いています。	目の前の大きな公園への散歩は日常的に行なわれ、近所のスーパーへ買い物に出かける等、出来るだけ戸外の空気に触れる事が出来るよう支援している。また、お花見や山笠見物、ホテルでの夕食等、気分転換を兼ねた外出を積極的に行い、利用者の楽しみになっている。また、普段行けない場所には、家族と相談し協力を得ながら、実現に向けて取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理出来ない方、施設で管理している。力に応じて、スタッフ同行にて買い物に外出している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は家族との相談のもと要望に添えるよう支援している。 家族からの電話は、常時取次を行っている。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾や壁面の飾りと工夫をしている。必要に応じて、トイレに芳香剤をしようしたりと配慮している。	4階建ての2階部分に位置し、複合型福祉施設の中の左右対称の2ユニットのホームは、広くゆったりとした雰囲気である。リビングの大きな掃きだし窓からは正面の公園が眺められ、犬の散歩やゲートボールに興じる様子を見ながら、利用者の気分転換が図られている。季節感のある装飾を取り入れ、ソファの配置にも気を配り、利用者と職員がのんびりと過ごせる共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブル、イスを設置し自由に談話したり、交流スペース空間を多くにご利用頂くように工夫している。隣のフロアでも自由に行けるよう入居者様の関係性についても配慮している。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、好みの物等、ご本人、家族の希望の物を使っていただいている。	居室は、出来るだけ自宅と違和感のない室内にするため、家族と相談しながら、利用者の大切にしていた物や、家族の写真、仏壇、家具等を持ち込んでもらい、利用者が穏やかに日々を暮らせるよう支援している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止を考慮した家具の配置や壁に張り紙を行い、情報提供に努めている。(トイレ、カレンダー等)		